

市民厚生委員会 視察報告

十月一日から三日の間で、三箇所の視察を行った。

初日は千葉障害者就業支援センターを視察。障害福祉の立場だけでなく、事業者の立場からも障害者の就労をどう支援していくのかを学んだ。また、障害者には就労に必要な技術だけでなく、社会性を身に付けることができるよう事業展開しているとのことであった。

二日目は埼玉県和光市で介護予防事業についてレクチャーを受けた。介護保険は、地方分権の試金石と銘打って、条例の整備や福祉保健事業の「スクラ



千葉障害者就業支援キャリアセンター

整備や福祉保健事業の「スクラ」展開していくのが今後、非常に重要な施策であるとのことであった。

三日目は、東京都調布市において「子ども家庭支援センター・すこやか」を視察。国領駅前であり、年間約十万人が来館し、子育て相談、ショートステイ、すこやか保育、トワイライトステイなど子育て支援に力を入れており、大変有意義な視察であった。



調布市子ども家庭支援センター・すこやか

総務文教委員会 視察報告

委員会では、十月十日から十二日まで東京都近郊の三市の視察・研修を行いました。

稲城市では、入札制度について研修しました。入札や契約の方法、手続きの適正化を図るために、弁護士など三名の学識経験者による「監査委員会」が設置され、必要に応じて市長に意見具申がなされているということでした。

三鷹市では、総合行政評価システムを研修しました。二〇〇一年に「成果重視の行政経営システム」の確立等に関する戦略を議会の議決事項である基本構



三鷹市で入札制度について視察研修

案を策定したとのことでした。青梅市では、特別支援教育を研修しました。LD学習障害、ADHD(注意欠陥/多動性障害)などの支援策として、小学校は週五日、中学校は週二日、学校支援員が配置されており、特別支援学級には介護員も派遣するという充実した体制でした。また、保育園・幼稚園との連携による就学支援シートによって、就学後の体制の強化も図られており、支援体制の素晴らしさに感銘を受けました。



青梅市にて特別支援教育を研修

編集後記

今年も残すところ、わずかにになりました。皆さまにとりましてはどのような一年でありましたでしょうか。

九月に福田康夫首相が誕生し、今後の日本は「自立と共生」を目指して進んでいくといわれています。皆さんの来年は何を目指していかれるのでしょうか。いずれにしろ今年一年どのような経過を、何が課題かをまとめることが肝要だと思っております。

来年も、皆さんに幸多かれとお祈り申し上げます。
(幸恵)

議会編集特別委員会
委員長 坂本靖男
副委員長 近藤幸恵
委員 長 藤原幸恵
委員 長 能文洋
委員 長 國文洋

